

まかべ保育園だより

正しい知識をもち冷静
に行動しましょう！

新型インフルエンザに関するQ&A

(厚生労働省平成21年8月31日版)

新型インフルエンザとは何ですか？

新型インフルエンザとは、季節性インフルエンザと抗原性が大きく異なるインフルエンザであって、一般に国民が免疫を獲得していないことから、全国的かつ急速なまん延により国民の生命および健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるものをいいます。

今般、メキシコや米国等で確認された新しいインフルエンザ(H1N1)を感染症法第6条第7号に規定する新型インフルエンザ等感染症に位置づけ、感染の拡大を防止する様々な対応が国際的な連携のもとに始められています。

新型インフルエンザの症状などについて教えてください。

新型インフルエンザの症状は、突然の高熱、咳、咽頭痛、倦怠感に加えて、鼻汁・鼻閉、頭痛等であり季節性インフルエンザと類似しています。ただし、季節性インフルエンザに比べて、下痢などの消化器症状が多い可能性が指摘されています。

(略)

新型インフルエンザは環境中でどれくらい生きていられますか。

ウイルスは細菌と異なり、生物の中でのみ増殖するため、環境中では状況によって異なりますが、数分間から数時間内に感染力を失うと言われていています。しかし、環境中でどれくらい生きていくのかといった科学的なデータは一定ではありません。

ただし、通常の季節型インフルエンザウイルスで考えても宿主となるヒトがいなく状況で生き続けることは困難です。インフルエンザウイルスは、飛沫感染(咳・くしゃみをあびる)や接触感染(感染したヒトが触ったドアノブなどを直後に触り、その後口を触り口腔内に入るなど)で感染します。

新型インフルエンザを予防するにはどうしたらいいのですか。

ウイルス感染を予防するためには、手洗い・うがいをしっかりとすることが大切です。

手洗いは、外出後だけでなく、可能な限り、頻回に行いましょう。石けんを使って最低15秒以上洗い、洗った後は清潔なタオル等で水を十分に拭き取りましょう。

また、ウイルスが粘膜を通して感染するため、極力鼻や口などを触らないようにしましょう。

咳、くしゃみの際の「咳エチケット」も感染防止の上では大切です。咳やくしゃみ等の症状のある人には必ずマスクをつけてもらいましょう。

集会やスポーツ大会は、中止しなければならぬのですか。

集会やスポーツ大会についての、一律の自粛要請は行われていません。感染の広がりや発生を考慮して開催を決定するとともに、病み上がりや体調不良気味、発熱症状のある方には参加や観戦を遠慮してもらうように徹底して呼びかける、人と人が近い距離で接触しないようにするなど、運営方法を検討してください。

必ずマスクを着用する必要がありますか。

マスクは、咳やくしゃみによる飛沫及びそれらに含まれるウイルス等病原体の飛散を防ぐ効果が高いとされています。咳やくしゃみ等の症状のある人は積極的にマスクをつけましょう。

一方で、予防用にマスクを着用するのは、混み合った場所、特に屋内や乗り物など換気が不十分な場所では一つの感染予防策と考えられますが、屋外などでは、相当混み合っていない限り着用する効果はあまり認められていません。

咳や発熱などの症状のある人に近づか

い、人混みの多い場所に行かない、手指を清潔に保つといった感染予防策を優先して行いましょう。

N95マスクの性能がよいと聞いたのですが。

N95マスクを使用する際にはとフィットテストなどの事前準備が必要であり、一般の方の使用にはむいていませんので、厚生労働省は推奨していません。

熱が出たらどうすればよいのですか。どういう症状があれば新型インフルエンザに感染したか疑うべきですか？

38以上の発熱があり、咳や咽頭痛等の急性呼吸器症状を伴う場合にはインフルエンザに感染している可能性があります。また、インフルエンザに感染している方との接触歴があるなども、感染を疑う上での参考になります。ただし、症状で新型インフルエンザと季節性インフルエンザを見分けることはできないと言われていています。

なお、持病のある方々など、感染することで重症化するリスクのある方は、なるべく早めに医師に相談しましょう。

また、もともと健康な方でも、以下のような症状を認めるときは、すぐ医療機関を受診してください。

- 小児
- 呼吸が速い、息苦しそうにしている
 - 顔色が悪い(土気色、青白いなど)
 - 嘔吐や下痢が続いている
 - 落ち着きがない、遊ばない
 - 反応が鈍い、呼びかけに答えられない
 - 意味不明の言動がみられる
 - 症状が長引いて悪化してきた
- 大人
- 呼吸困難または息切れがある
 - 胸の痛みが続いている
 - 嘔吐や下痢が続いている
 - 3日以上、発熱が続いている
 - 症状が長引いて悪化してきた

(略)

新型インフルエンザにかかったとおもったら、どの医療機関を受診すればよいのですか。

発熱患者の診療をしている医療機関がどこにあるかわからない方：
保健所などに設置されている発熱相談センターに電話して、どの医療機関にいけばよいか相談しましょう。

発熱患者の診療をしている近隣の医療機関がわかっている方：
発熱患者の診療をしている医療機関に電話をして、受診時間などを聞きましょう。

慢性疾患などがあってかかりつけの医師がいる方：
かかりつけの医師に電話をして、受診時間などを聞きましょう。

妊娠している方：
かかりつけの産科医師に電話をして、受診する医療機関の紹介を受けましょう。産科医師が紹介先の医師にあなたの診療情報を提供することがあります。

呼吸が苦しい、意識がもうろうとしているなど症状が重い方：
なるべく早く入院施設のある医療機関を受診しましょう。必要なら救急車(119)を呼び、必ずインフルエンザの症状があることを伝えましょう。

医療機関を受診する前に、必ず電話で連絡をし、受診時間や入り口等を確認してください。受診するときは、マスクを着用し「咳エチケット」を心がけるとともに、極力公共の交通機関の利用を避けてください。

新型インフルエンザの診断方法を教えてください(医療機関でPCRをされたら大丈夫か)

新型インフルエンザ感染が疑われるのは、38以上の発熱があり、咳や咽頭痛等の急性呼吸器症状を伴う場合であって、迅速診断キットにおいてA型が陽性の場合や、医

新型インフルエンザについて

師が臨床症状などからインフルエンザ感染が疑われ、かつ地域において新型のインフルエンザが流行していることが明らかな場合などがあります。

確定診断のためのPCR検査は、こうしたインフルエンザ様症状を呈する者の中で、「重症化するおそれのある患者(入院治療するなど、治療選択に際して確定診断の必要を医師が認める者)」及び病原体定点医療機関を受診した患者に対して行われます。PCR検査が行われなかった場合でも、医師の判断により適切に治療が行われますので、ご安心ください。

新型インフルエンザの治療法について教えてください。

主な治療法は抗インフルエンザウイルス薬(タミフル・リレンザ)の投与です。これらの薬は、医療機関等において医師が必要と認める場合に処方されます。また、症状を緩和させる目的で、解熱薬や去痰薬、鎮咳薬などが処方されます。妊婦や乳幼児に対する処方については、副作用のリスクを見極めながら、医師が投与の判断をすることになっています。

新型インフルエンザの感染者が自宅での治療となった場合、家族はどうすればよいのですか。

- 患者はなるべく家族とは別の個室で静養することとし、マスクの着用や「咳エチケット」を心がけてもらう
- 手洗い、うがいを促して、マスクを着用する
- 患者の看護や介護をした後は必ず石けんによる手洗い、またはアルコール製剤による消毒をするをお願いします。

今回の新型インフルエンザは、今後病原性が変化する可能性はあるのですか。

ウイルスがどのように変異するかを予測することはできませんが、インフルエンザウイルスは変異が早いという特徴があります。そこで、厚生労働省では今後も病原性が変化する可能性も踏まえたサーベイランス体制を構築しています。

(略)

通常の季節性インフルエンザでは、感染者数と死亡者数はどのくらいですか。

例年のインフルエンザの感染者数は、国内で推定約1000万人いると言われていています。国内の2000年以降の死因別死亡者数では、年間でインフルエンザによる死亡数は214(2001年)～1818(2005年)人です。また、直接的及び間接的にインフルエンザの流行によって生じた死亡を推計する超過死亡概念というものがあり、この推計によりインフルエンザによる年間死亡者数は、世界で約25～50万人、日本で約1万人と推計されています。

新型インフルエンザのハイリスク群について教えてください。

新型インフルエンザでは「慢性肺疾患(喘息、慢性閉塞性肺疾患=COPDなど)、免疫不全状態(自己免疫疾患など)、慢性心疾患、糖尿病、肥満、妊娠、重症筋無力症など」の方は重症化しやすいと報告されています。

インフルエンザのハイリスクとなる持病

- 慢性呼吸器疾患
- 慢性心疾患
- 糖尿病などの代謝性疾患
- 腎機能障害
- ステロイド内服などによる免疫機能不全

インフルエンザが重症化することがあると報告されている方々

- 妊婦
- 乳幼児
- 高齢者

インフルエンザ脳症について教えてください。

インフルエンザ脳症は、インフルエンザ発病後急に病状が悪くなる病気で、主に5才以下の乳幼児がかかります。

その初期にはインフルエンザの症状に加えて、

- 呼びかけに答えられないなどの意識障害、

- 意味不明の言動、
- 持続性のけいれんなどの症状が現れます。

このような症状が見られた際には、速やかに医療機関を受診して下さい。

また、強い解熱剤によりインフルエンザ脳症がより重症化することがあるため、解熱剤の使用はかかりつけの医師に相談して用いましょう。

(略)

新型インフルエンザワクチンQ&A

(厚生労働省平成21年10月2日版)

今回の新型インフルエンザワクチン接種の目的は何ですか？

今回の新型インフルエンザウイルスは、感染力は強いのですが、多くの感染者はかかっても軽症のまま回復しています。また、タミフル等の治療薬も有効です。

ただし、国民の大多数に免疫がなく、感染が拡大する可能性があることや、糖尿病やぜん息などの基礎疾患がある方や妊婦の方などが重症化する可能性があることが懸念されています。

今回の新型インフルエンザワクチンの接種は、重症者や重症者の発生をできる限り減らすことと、こうした患者が集中発生して医療機関が混乱することを防ぐことを目的としています。

新型インフルエンザワクチンの接種は何回受ければよいのでしょうか？

2009年9月時点では2回です。ただし、現在、国内外で行われている臨床試験の結果次第では、専門家の評価を踏まえて、対象者の一部に対しては1回接種でも良いことになる場合も考えられます。

新型インフルエンザワクチンの接種を受けることが適当でない人や接種時に注意が必要な人はありますか？

- 予防接種を受けることが不適当と考えられる方
- 新型インフルエンザワクチンの予防接種が不適当と考えられる方は、基本的に季節性インフルエンザワクチンと同様に以下のように考えられます。
- 明らかな発熱を呈している方
 - 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかの方
 - 接種を行う新型インフルエンザワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかの方
 - 上記に掲げる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方

接種要注意者(接種の判断を行うに際し、注意を要する方)

次のいずれかに該当すると認められる場合は、医師が健康状態及び体質を勘案し、診察及び接種適否の判断を慎重に行うなど、注意して接種します。

- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方
- 以前の予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- 過去にけいれんの既往のある方
- 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- 気管支喘息のある方
- 本剤の成分又は鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対してアレルギーを呈するおそれのある方

参考：(略)

新型インフルエンザに感染した人でも、新型インフルエンザワクチンの接種が必要ですか？

一般的に、新型インフルエンザに感染して発症した方は、免疫を持っていると考えられるため、予防接種をする必要はないと

優先的に接種する対象者について

対象者	人数
①インフルエンザ患者の診療に直接従事する医療従事者(救急隊員含む)	約100万人
②妊婦	約100万人
基礎疾患を有する者	約900万人
③1歳～小学校3年生に相当する年齢の小児	約1,000万人
④1歳未満の小児の保護者	約200万人
・優先接種対象者のうち、身体上の理由により予防接種が受けられない者の保護者等	
その他	約1,000万人
小学校4～6年生、中学生、高校生に相当する年齢の者	
高齢者(65歳以上)(基礎疾患を有する者を除く)	約2,100万人
	約5,400万人

上記以外の者に対する接種については、上記の者への接種状況等を踏まえ、対応。

考えられます。ただし、確実に新型インフルエンザに感染したと言えるのは、PCR検査やウイルス分離等で新型インフルエンザウイルスあるいはその遺伝子が検出された方のみです。PCR検査等によりウイルスの検出が行われず既に新型インフルエンザに罹患したかどうか不明な場合、希望すれば接種することは可能です。

季節性インフルエンザワクチンは新型インフルエンザにも効果がありますか？
季節性インフルエンザのワクチンは今回の新型インフルエンザウイルスに対しては有効ではないと考えられています。

季節性インフルエンザワクチンと新型インフルエンザワクチンは同時に接種できますか？
既存の製法による国内ワクチンと季節性インフルエンザワクチンの同時接種については、医師が必要と認めた場合には実施可能と考えられています。
ただし、季節性インフルエンザワクチンとアジュバント入りの輸入ワクチンの同時接種については、海外等の情報を踏まえた別途の検討が必要であり、当面差し控えることが望ましいと考えられます。

インフルエンザワクチンでどのような効果が期待できますか？
一般的に、インフルエンザワクチンは、重症化防止効果や発症予防効果が期待されていますが、感染防止効果については保証されておらず、新型インフルエンザワクチンについても、同様と考えられます。そのため、頻りに手洗いをすることや人混みを可能な限り避ける、などの感染予防策を講じることが必要です。
なお、季節性インフルエンザワクチンの有効性等については、国立感染症研究所のQ&Aに詳しく記載されていますので参考にしてください。

参考：国立感染症研究所 感染症情報センターHP「インフルエンザQ&A(2008年度版)」(4) <http://idsc.nih.gov/jp/disease/influenza/fluQA/Qadoc04.html>

新型インフルエンザワクチンの接種によって引き起こされる症状(副反応)にはどのようなものがありますか？
季節性インフルエンザワクチンの場合、比較的頻度が高い副反応としては、接種した部位(局所)の発赤・腫脹、疼痛などがあげられます。また、全身性の反応としては、発熱、頭痛、悪寒、倦怠感などが見られます。さらに、まれに、ワクチンに対するアレルギー反応(発疹、じんましん、発赤と掻痒感)が見られることがあります。
接種局所の発赤、腫脹、疼痛は、接種を受けた方の10～20%に起こりますが、2～3日で消失します。全身性の反応は、接種を受けた方の5～10%にみられ、2～3日で消失します。
その他に、因果関係は必ずしも明らかではありませんが、ギランバレー症候群、急性脳症、急性散在性脳脊髄炎、けいれん、肝機能障害、喘息発作、紫斑などの報告がまれにあります。

今回の新型インフルエンザワクチンも程度の問題はありますが、同様の副反応が予

想されます。
参考：(略)

ワクチンの効果はどのくらい持続しますか？
これまでの季節性インフルエンザワクチンでは、2回接種した成績によりすると、2回目の接種1～2週後に抗体が上昇し始め、1カ月後までにはピークに達し、3～4カ月後には徐々に低下傾向を示します。したがって、ワクチンの予防効果が期待できるのは接種後2週から5カ月程度と考えられており、新型インフルエンザワクチンでも同程度と考えられます。

妊婦に対してもワクチンを接種することができるのですか？
日本で使用されるインフルエンザワクチンは、生ワクチンではないので妊婦に対して特に重篤な副作用は起こらないと考えられ、一般的に妊娠中の全ての時期において接種可能であると考えられています。
また、妊娠初期に従来のインフルエンザワクチンを接種しても奇形のリスクがないという研究結果もあります。
なお、新型インフルエンザワクチンの複数回接種用のバイアル製剤(小瓶に注射液が充てんされている製剤)には季節性インフルエンザ用の製剤と同様にチメロサル等の保存剤が使用されています。今回の新型インフルエンザワクチンでは、プレフィルドシリンジ製剤(あらかじめ注射器に注射液が充てんされている製剤)には保存剤の添加は行われておらず、保存剤の添加されていないワクチン接種を希望する妊婦は、プレフィルドシリンジ製剤が使用できることとしています。

参考：(略)
授乳中にインフルエンザワクチンを接種しても問題はありますか？
授乳期間中でも、インフルエンザワクチンを接種しても支障はありません。インフルエンザワクチンは不活化ワクチンというタイプで、病原性をなくしたウイルスの成分を用いているため、ウイルスが体内で増えることがなく、母乳を介してお子さんに影響を与えることはありません。

参考：(略)
インフルエンザワクチンにチメロサルという添加剤が含まれているとのことですが安全ですか？チメロサルが入っていないものはないのですか？
新型インフルエンザワクチンの複数回接種用のバイアル製剤(小瓶に注射液が充てんされている製剤)には季節性インフルエンザ用の製剤と同様にチメロサル等の保存剤が使用されています。
チメロサルはエチル水銀に由来する防腐剤であり、メチル水銀とは異なります。海外で過去に発達障害との関連性が指摘されましたが、最近の疫学研究ではその関連はないとされており、一般的には接種によるベネフィットがリスクを上回ると考えられています。
しかしながら、ワクチン全般において予

防的な対応が大切であるとして、各国ともワクチンから除去・減量の努力を行っています。
今回の新型インフルエンザワクチンでは、プレフィルドシリンジ製剤(あらかじめ注射器に注射液が充てんされている製剤)には保存剤の添加は行われておらず、保存剤の添加されていないワクチン接種を希望する妊婦は、プレフィルドシリンジ製剤が使用できることとしています。

参考：(略)
新型インフルエンザワクチンの優先接種対象となるのはどのような人でしょうか？
今回の新型インフルエンザに関しては、多くの方は軽症のまま回復している一方、基礎疾患を有する方等において重症化する可能性が高い、などの特徴があります。また、今回の新型インフルエンザの予防接種については、死亡者や重症者の発生をできる限り減らすことやそのために必要な医療を確保することを、その目的としています。
そのため、次に示すように死亡や重症化のリスクが高い方を優先すること、またその方々の治療に従事する医療従事者を優先することを基本的な方針としています。

- 優先接種の対象者
- (1)インフルエンザ患者の診療に直接従事する医療従事者(救急隊員を含む)
 - (2)妊婦及び基礎疾患を有する方
 - (3)1歳から小学校3年生に相当する年齢の小児
 - (4)1歳未満の小児の保護者、優先接種者のうち、予防接種が受けられない方の保護者等
- その他の対象者
- 小学校4年生から6年生、中学生、高校生に相当する年齢の者
 - 高齢者(65歳以上)

優先接種対象ではない人は接種できないのですか？優先接種対象者は新型インフルエンザワクチンを接種しなくてはいけいのですか？
優先的な接種対象者等については、新型インフルエンザに罹患した場合、重症化するリスクが高いと考えられるため、優先的に接種機会を提供することが必要であるとされています。これら以外の方々についても、優先接種が終了次第、希望者が接種を受けられるようにする必要はあると考えており、今後の流行の状況、接種の状況や供給量なども踏まえ、対応してまいります。
今回の新型インフルエンザワクチン接種については、あくまでも個人の意思が尊重されます。優先接種対象者についても、接種義務が生じるものではなく、該当する方のうち、希望者については接種を可能とするものです。

今回の新型インフルエンザワクチンは日本国内でどれくらい確保できているのですか？
今回の新型インフルエンザワクチンについては、国内産ワクチン・輸入ワクチンをあわせて約7700万人分(一人2回接種の場合)確保できる見込みです。
国内産ワクチンは、10月下旬から接種できる見込みで、年度内は約2700万人分確保できる予定です。
輸入ワクチンは、年末・年始に接種が開始できる見込みで、年度内に約5000万人分確保できる予定です。

新型インフルエンザワクチンはいつ、どこで接種できますか？
新型インフルエンザワクチンは、それぞれの優先接種対象者ごとに都道府県が設定した時期から接種を受けることができます。また、接種を受けることができる医療機関の名称等については、市町村のホームページをご覧ください。

今回の新型インフルエンザワクチンはどれくらいの費用で接種できるのですか？
今回の新型インフルエンザワクチンの接種費用については接種を受ける方に、実費をご負担いただくこととしており、1回目の接種は3600円、2回目の接種は2550円(ただし、2回目異なる医療機関で接種を受けた場合は、基本的な健康状態等の確認が再度必要となるため、3600円)とすることとしています。
ただし、所得の少ない世帯については、人口の約3割に当たる市町村民税非課税世

帯の負担を軽減できる財源を確保しています。
具体的な費用負担額については、今後、市町村が決定する予定としておりますので、お住まいの市町村におたずねいただきたいと思います。
(略)

重篤な副反応が生じた場合、医師が責任をとるのですか？
今回の新型インフルエンザワクチン接種に伴い、予防接種を受けた方に健康被害が発生した場合の救済については、現行の予防接種法に基づく季節性インフルエンザの定期接種に関する措置を踏まえて必要な救済措置を講じることができるよう検討を行い、速やかに立法措置を講じることができるよう準備を進められているところです。
なお、今回の新型インフルエンザワクチン接種は、国が主体となり実施するものですので、ワクチンの接種によって、被接種者の生命又は身体に損害が生じたときは、国家賠償法の範囲内で、国が賠償責任を負うこととなります。
(略)

海外産と国内産は何が異なるのですか？
海外で製造されたワクチンについては、(1)現時点では国内での使用経験・実績(臨床試験を除く)がないこと、(2)国内では使用経験のないアジュバント(免疫補助剤)が使用されていること、(3)国内では使用経験のない細胞株を用いた細胞培養による製造法(国内産は鶏卵による培養)が用いられているものがあること、(4)投与経路が筋肉内(国内産は皮下)であること、(5)小児に対しては用量が異なることなど、国内で製造されたワクチンとは異なっています。

アジュバント(免疫補助剤)：
ワクチンと混合して投与することにより、目的とする免疫応答を増強する物質。これにより、同じワクチン量でもより多くの者への接種が可能となる。一般的に、副反応の発生する確率が高いことが指摘されている。
細胞培養：
ワクチンの製造方法の一種。鶏卵による培養よりも、生産効率が高いとされるが、インフルエンザワクチンではこれまで世界で広く使用されるには至っていない。また、一部の海外のワクチンについては、製造に使用される細胞に、がん原性は認められないものの、腫瘍原性があるとされており、使用等に当たっては、特に慎重を期すべきとの懸念も専門家から示されている。なお、EMA(欧州医薬品庁)の評価によれば、当該細胞は製造工程で除去されるなど、最終製品での安全性は問題ないと評価されている。

海外産ワクチンはどのような手続きを経て輸入ができるようになるのですか？また、海外産ワクチンの安全性はどのように確認されますか？
重症者の発生などの健康被害を防止するためには、国内産のワクチンだけでは十分な供給量とは言い難いので、健康危機管理の観点から海外産を緊急に輸入し、一定量のワクチンを確保することとしています。
海外産が輸入できるようになるためには、わが国の薬事承認を得る必要がありますが、通常の手続きに従って、薬事承認を得るとすると、今年の秋・冬の流行までの輸入が間に合なくなります。そこで、特例的に、通常承認の要件を緩和して、緊急に承認を与える「特例承認」の適用が検討されています。
特例承認を適用する場合であっても、ア わが国と同等の承認制度を有する国で承認されているワクチンであることを前提とし、イ 薬事食品衛生審議会において、海外臨床試験成績や国内臨床試験の中間報告などの資料を十分確認するなどの対応を講じます。
また、特例的な承認後も、国内外の安全性情報等の速やかな収集に努めます。
(保護者数配布)